

第2回審議会の振り返りと確認について

門真のめざす姿と門真の教育の現状について

- データを基に、学力、不登校、体力などについて門真の現状を事務局より説明
- 門真市教育振興基本計画、門真市魅力ある教育づくり審議会答申の概要を事務局より説明

学力についての意見

公立では、学テの結果のような数値だけではない、人格形成や生きる力を育んでいる部分も大きい。学力をどう捉えるか。その示し方も大事ではないか。

不登校についての意見

不登校や問題行動は中学校は減っているが、小学校は増えているように見える。低年齢化しているのか気になるところ。

⇒ スマホを含めて、情報ツールやコミュニケーションツールが変化しているのに加え、低年齢化している。小学校の生徒指導が中学校に近くなっており、件数こそ増えているが、正面から取り組んでいる結果でもある。

不登校の要因は様々あると思う。人とのつながりが切れてしまい、孤立してしまうのも課題である。

小から中、幼・保から小学校に上がるタイミングでの環境の変化も要因となるケースがある。この接続をどうスムーズにするのかも重要。

⇒ 不登校などの課題は一時的なものではなく連続性があり、小中一貫で教育を考えるというところでは非常に大事な視点である。

学校づくりの視点での意見

小中学校を公立でと思ってもらえる魅力的な学校を創っていくことは、地域にとっても、子どもたちの地域への愛着を育むうえでも大事ではないか。

不登校などの具体的な要因を探ることで、子どもの過ごしやすい場所づくりなど、解決に資する学校づくりに参考になる部分もあるのではないか。

門真の子どもたちには、データでは表されていない人懐っこさや子どもらしい可愛さがある。門真らしい学校づくりのヒントがあるのではないか。

学校を通じて、保護者のつながりや地域のつながりを創ることで、学校で学ぶ子どもたちの環境も良くなるのではないか。

門真のめざす姿と門真の教育の現状について

地域と学校との関わりについての意見

門真の現状や課題の解決に向けて、学校と地域や家庭がさらに関係性を深めること、また、先生と子どもだけではなく、多様な人間と関わる環境を創ることが重要である旨の意見が多く出された。

暴力行為や不登校に関しては、学校だけではなく、地域の人が入り込むことで防げることもある

不登校や学力も含めて、子どもたちが発達していく中で地域や保護者も学校とつながって、一緒になって取り組むことが必要

学校に対して地域や保護者が関わっていくことが大事

学校での地域や保護者のつながりによって、困っている家庭をサポートできることもある

小学校のうちから学校だけではなくて地域も一緒になって子どもたちを見ていくことが必要

地震や災害があった時など、地域の力が必ず必要
普段から学校と地域が協力して備えることも必要

まとめ

人のつながりの中で子どもを育てたいと思っている。そのつながりをどう創っていくのかというのが求められているところではないか。人懐っこい子どもが多いというのも、多くの人のつながりで生まれてきたものではないか。門真の強みであり、ヒントになるのではないか。

親と学校とが触れる機会をもっと密に持つ、地域や親を含めて学校に目を向けるような仕組みを学校の中に創っていくのが重要。

課題への対症療法としてではなく全体として、「学力も含めた生きる力をどう捉えるか」「人とのつながりをどう創るか」という中で、学校をどう創っていくのかということを考えていくように進めたい。

人とのつながりの中で、自分の生き方を見つけるためのキャリア教育について

○ 門真市の現状を踏まえた、今後の学校づくりと教育の方向性としてキャリア教育、小中一貫教育について事務局より説明

キャリア教育について、子どもたちが生涯にわたって生きる力を身に付け、自立していく過程を様々な人とのつながりの中で育んでいくという観点で、様々な意見が出された。

一人ひとりの子どもたちの自立をめざした教育がキャリア教育

勉強ができなくても、得意なことがあればいい。自分がどう生きたいのかということをしっかり考えることが大事なところ

学校での先生の関わり方の中から自立というか、将来の選択肢が広がるようなこともキャリア教育の一つにあってもいい

小中一貫という手法を採ると、職員間の時間がなかなか取れないとか物理的な距離といった課題のいくつかは解決するんじゃないか

一回の何かの取組ではなくて、ちょっとずつたくさん繰り返すの中で、キャリア形成していくもの。そういう意味でキャリア教育を考えると、幼小中、高校まで含めて、その子の育ちをどのように見ていくかは大事

将来自分がどんな大人になりたいか、10年後、20年後どうなっていたいかをイメージさせつつ、教科の授業、行事の中で、生きるちから、自立できるちからをつけてやるのが学校の果たす役割かなと思う

学校を中心に、子どもに自分を大切な存在だと思えるよう、地域も、学校の先生も一緒になって寄り添うといった門真の教育を創りたい
その基盤としてキャリア教育があると考えており、職業について考えるだけではなく、もっと大きなものとしてキャリア教育を捉えたい

小中一貫教育に関して、子どもも保護者も中学校はどんなところかわからないところがある。昔のイメージだけで公立中学校は荒れていると思っているケースがある。小学校のうちから中学校が見えると、私立ではなく地元の学校に行こうと思う保護者も増えてくる可能性もある

まとめ

キャリア教育に関連した具体例について、様々な意見、面白い事例を紹介しただけだ。

必要性や方向性については皆さん肯定的であり、門真の新たな教育にとって可能性のある話である。

子どもたちの個性や能力、一人ひとりの違いを学校の中でどう伸ばしていくのか、一人ひとりの生きるちからをどう身につけていくか、というあたりを将来を見据えた中で考えるのが、キャリア教育の根幹であるということではないか。

人とのつながりの中で、自分の生き方を見つけるためのキャリア教育について

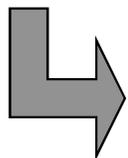
門真のめざす教育の方向性について、表現や言葉の使い方について、意見が出た

キャリア教育と小中 一貫教育の関係性

・・・ 小中一貫教育とキャリア教育はどちらも手法の問題。「基盤とした」よりも並列が良いのでは。人とのつながりを大事に。その先にあるのは、子ども一人ひとりの自立ではないか。『人とのつながりを活かして自立をめざす』教育というのはどうか。

地域との連携・交流

・・・ 新しい学校の創造、地域と学校の関係といった前半の話も踏まえると、地域の人達も学校に踏み込む、学校も地域に踏み込む、地域とともに生きる学校というようなもう少し厚みがあるといい。



就学前から小学校・中学校と教職員も思いをひとつにして、学校の中での縦のつながりとともに、地域のいろいろな人とのつながり、横の広がりも創りたい。

縦のつながりや横のつながりとともに、時間軸の中で、子どもたちを系統的に見ていくことがキャリア教育を行う上で大事。教師、地域の人、大学生、様々な立場の人がみんなで門真の子を支える。その中心にあるのが学校。

子どもが良き大人のモデルと出会い、触発されて頑張る、そして学びのモチベーションを持ち、それが将来の自立につながる。

まとめ

門真がめざしているキャリア教育は、縦のつながりや横のつながりとともに、時間軸としてのつながりを含めた多様な人間関係の構築をとおして、子どもたちの自立をめざし、しっかりと生きていくというものである。

門真の考えている教育は、一般的な「キャリア教育」という言葉以上の大きな可能性を持っている。キャリア教育という呼び方自体も変えてもいいかもしれない。

「人と人のつながりのなかで一人ひとりが育ち、自立していく」ということ、これを門真の言葉で表現できれば良い。